

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(12)

—— 農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業池袋地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

いけ ぶくろ
池 袋 遺 跡

1997年 3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

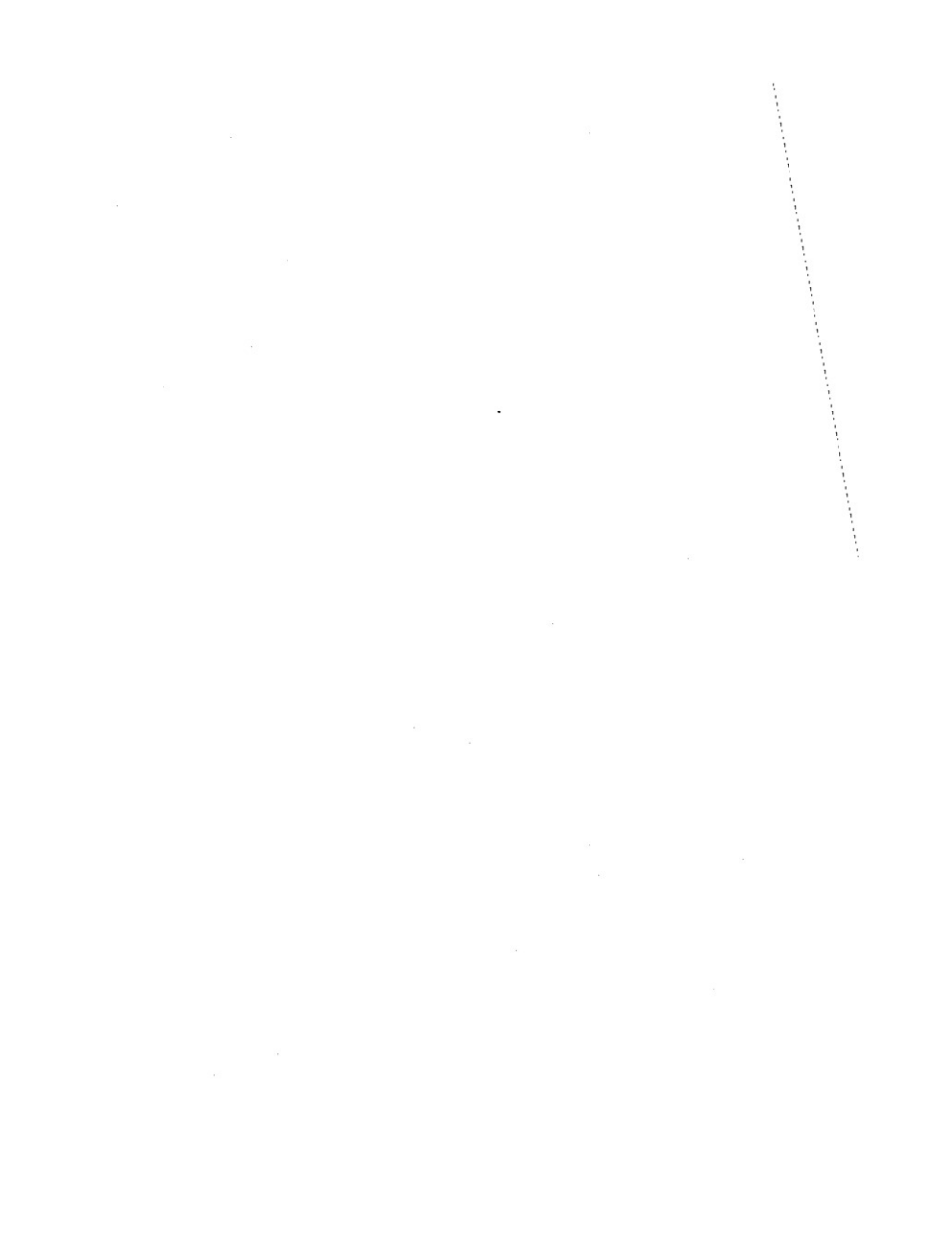
秦野内ノ野池袋地区の農道を農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業で整備するにあたり、平成7年度に行った分布調査の結果、この地域は埋蔵文化財の包蔵地にあたるとわかったので、池袋遺跡を平成9年1月20日から平成9年2月7日までの間発掘調査をしました。調査面積は48㎡になりました。

秦野の内ノ野地区では初めての発掘調査になるので、貴重な資料が発見されるかと期待していました。遺物が出土し遺跡の範囲も把握されましたが、住居跡などの遺構は見られませんでした。調査した面積も狭い範囲だったためでしょうか。住居跡などの重要な遺構はそう簡単には見つからないものだと実感しました。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化財課の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

松山町教育委員会 教育長 川 畑 禮 二



例 言

1. 本報告書は、平成8年度に実施した農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業池袋地区に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

報告書抄録

ふりがな	いけぶくろいせき				
書名	池袋遺跡				
副書名	農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業池袋地区 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
巻次					
シリーズ名	松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）				
シリーズ番号					
編著者名	上田義明				
編集機関	松山町教育委員会				
所在地	〒899-76 鹿児島県曾於郡松山町新橋268番地				
発行年月日	1997年3月31日				
ふりがな	いけぶくろいせき				
所収遺跡名	池袋遺跡				
所在地	鹿児島県曾於郡松山町泰野池袋				
調査期間	1997. 1. 20～2.7				
調査面積	48㎡				
調査原因	農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業池袋地区				
出土遺物・遺構等	主な時代	主な遺構	主な遺物	出土量	特記事項
	縄文時代		縄文時代早期晩期	パンケース1箱	

本文目次

序文

例言

報告書抄録

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	1
第2章 調査の概要	5
第1節 調査の概要	5
第2節 標準土層	5
第3節 各トレンチの調査	6
第4節 出土土器・石器	10
第3章 まとめ	10

挿図目次

第1図 池袋遺跡位置図	3
第2図 池袋遺跡トレンチ配置図	4
第3図 土層模式柱状図	5
第4図 第1トレンチ遺物出土状況	6
第5図 第2トレンチ遺物出土状況・西壁層位断面図	6
第6図 第3トレンチ西壁層位断面図	7
第7図 第4トレンチ遺物出土状況	7
第8図 第5トレンチ西壁層位断面図	7
第9図 第6トレンチ東壁層位断面図	8
第10図 池袋遺跡出土土器実測図	8
第11図 池袋遺跡出土石器実測図	9

表目次

第1表 出土土器観察表	10
-------------	----

図版目次

図版1 池袋遺跡遠景	11
図版2 第1トレンチ遺物出土状況	11
図版3 第2トレンチ遺物出土状況	12
図版4 第4トレンチ遺物出土状況	12
図版5 第5トレンチ西壁層位断面図	13
図版6 発掘調査作業風景	13

第1章 調査の経過

1) 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町泰野池袋地区において農地侵食防止（県営シラス対策）関連事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて、平成7年4月、県文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に池袋遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、松山町教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘確認調査を実施することとなった。

発掘調査は、鹿児島県農政部（大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化財課の協力を得て、平成9年1月20日から平成9年2月7日まで実施した。調査面積は計48㎡である。

2) 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会	
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長 川 畑 禮 二
調査事務担当者	〃	管 理 課 長 白 坂 泰 雄
	〃	参事兼指導主事 新村 陸 実
	〃	主 査 後 藤 由 紀 子
	〃	主 事 加 世 田 和 彦
	〃	社会教育課長 迫 田 正 弘
	〃	主 査 福 留 栄 行
	〃	派遣社会教育主事 田 淵 省 二
	〃	主 事 上 田 義 明
	〃	社会教育指導員 木 藤 茂 弘
	〃	庶 務 係 早 崎 ゆ う 子
調査担当者	松山町教育委員会	主 事 上 田 義 明

なお、調査の企画等において県教育文化財課長立園多賀生氏、同課長補佐兼係長山田孝志氏、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長戸崎勝洋氏の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3) 調査の経過

1月20日（月）調査開始。調査器具の搬入。発掘調査についての説明。第6トレンチ・第5トレンチ設定。2層面掘り下げ。出土遺物なし。

1月21日（火）第6トレンチ・第5トレンチ4層検出。出土遺物なし。

1月22日（水）第6トレンチ5層検出。出土遺物なし。第1トレンチ・第2トレンチ・第3トレンチ設定。

1月23日（木）第6トレンチ・第5トレンチ7層検出。出土遺物なし。第3トレンチ・第4ト

ンチ4 a層面検出。土器多数出土。第2トレンチ4 a層遺物出土状況実測・写真撮影。遺物取上げ。

- 1月27日(月) 第2トレンチ・第3トレンチ5層面検出。第1トレンチ3層面検出。遺物多数出土。第2トレンチ4 a層遺物出土状況実測・写真撮影。遺物取上げ。第6トレンチ・第5トレンチ位置図、層位断面図実測。層位断面図写真撮影。
- 1月28日(火) 第2トレンチ・第3トレンチ7層面検出。出土遺物なし。午後より雨のため作業中止。
- 1月29日(水) 第1トレンチ5層面検出。第4トレンチ設定。第4トレンチ3層面検出。遺物多数出土。第4トレンチ4 a層遺物出土状況実測・写真撮影。遺物取上げ。第3トレンチ・第3トレンチ位置図、層位断面図実測。層位断面図写真撮影。
- 2月3日(月) 第1トレンチ7層面検出。第2トレンチ6層面検出。集石検出。第6トレンチ・第5トレンチ埋め戻し終了。
- 2月4日(火) 第4トレンチ集石出土状況実測・写真撮影。第1トレンチ位置図、層位断面図実測。
- 2月6日(木) 第1トレンチ埋め戻し終了。第4トレンチ6層面検出。出土遺物なし。
- 2月7日(金) 第4トレンチ7層面検出。位置図、層位断面図実測。写真撮影。第2トレンチ埋め戻し終了。全調査終了。調査機材の搬出。



第1図 池袋遺跡位置図



第2図 池袋駅西口地区の配置図

第2章 調査の概要

1) 調査の概要

調査区域は、松山町奈野内ノ野集落にあり、標高約200mで宮田山の裾野に位置する。県道柿木志布志線から宮田山方向に伸びる農道が整備される予定の範囲で、地形的に残りの良い地点を中心に2m×4mのトレンチを6ヶ所設定して行った。

その結果第1トレンチ、第2トレンチ、第4トレンチの3層、4a層、5層、6層より縄文時代早期・中期・晩期の土器が多数出土し、石器も数点出土した。また、第4トレンチ6層より集石遺構が検出されたが人為的な物であるか、自然現象によるものかは確認できなかった。

2) 標準土層

1層 暗褐色耕作土。

2層 黒色腐植火山灰土層。黒色微粒の植壤土で、やや粘質を帯びる。

3層 明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。

4a層 褐色腐食火山灰土層。直径1mm前後の黄橙色軽石を多く含む。4b（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。

4b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

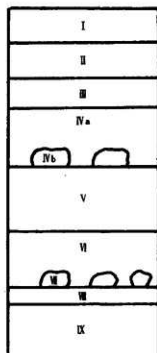
5層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。

6層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。

7層 茶褐色土層。やや粘質を帯びる。ほぼ10cmの厚さで堆積している。

8層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。第5トレンチのみに確認された。

9層 淡黄褐色火山灰土層。粘質化した二次シラス層である。

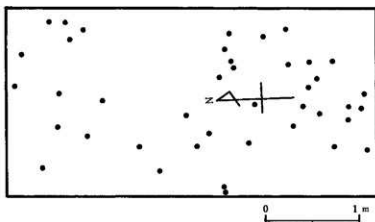


第3図土層模型柱状図

3) 各トレンチの調査

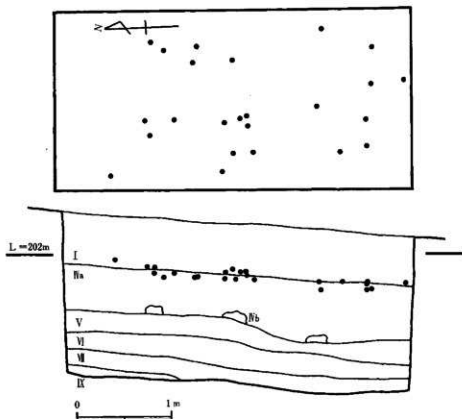
第1トレンチ

調査区域の北端に位置する2m×4mで設定したトレンチで、長軸はほぼ南北を向く。標高は約205.0mである。全体的に北側から南側に傾斜する地形で、3層から縄文時代晩期の土器が、4・5・6層にかけて縄文時代中期、早期の土器及び石器が出土した。(第10図参照)



第4図 第1トレンチ遺物出土状況

そらく第1トレンチ6層でも集石が確認される可能性が高い。



第5図 第2トレンチ遺物出土状況・西壁層位断面図

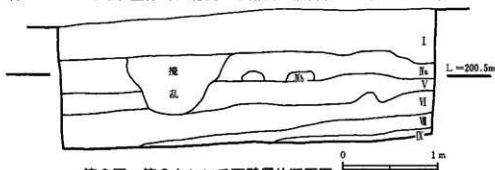
第1トレンチは5層まで掘り下げたが、調査期間がなくなったため、層位断面図は実測できなかった。また、第4トレンチで6層に検出された集石も検出できなかった。お

第2トレンチ

第1トレンチから南側へ約50mに位置する2m×4mで設定したトレンチで、長軸はほぼ南北を向く。標高は約202.0mである。表土直下が4層で、全体的に南に傾斜する地形である。遺物は4層上部に集中しており、遺構などは確認できなかった。

第3トレンチ

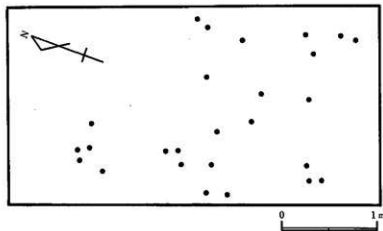
第2トレンチから農道を隔てて東側に約5mの位置に2m×4mで設定したトレンチで、長軸はほぼ南北を向く。標高は約202.0mである。全体的に北側から南側に傾斜する地形で、4a層から上層が既に削平されている。遺物は表土から縄文晩期の土器や石器が出土したが、生きた層からは出土しなかった。また、9層まで掘り下げたが、第4トレンチに検出された集石は確認できなかった。



第6図 第3トレンチ西壁層位断面図

第4トレンチ

第1トレンチから農路を隔てて、東側に約5mの位置に2m×4mで設定したトレンチで、長軸はほぼ南北を向く。標高は約205.0mである。全体的に南側に傾斜する地形で、3層から縄文時代晩期の土器が、4・5・6層にかけて縄文時代中期、早期の土器及び石鏃、石斧等の石器が出土した。(第10図参照)第6

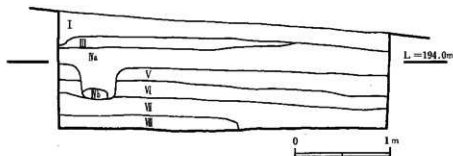


第7図 第4トレンチ遺物出土状況

層から集石が検出された。人為的なものか自然のものか判断はできなかった。調査期間がなくなったため、第6層以下は掘り下げなかった。また層位断面図も実測できなかった。

第5トレンチ

調査区域の南端に位置する第6トレンチから北へ約30mの位置に2m×4mで設定したトレンチで、長軸は南北を向く。標高は約194.0mである。3層が一部残っているが、ほぼ4a層から上層は既に削平されている。全体的に南側に傾斜する地

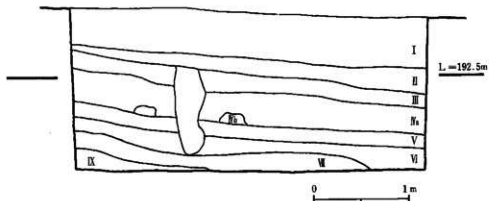


第8図 第5トレンチ西壁層位断面図

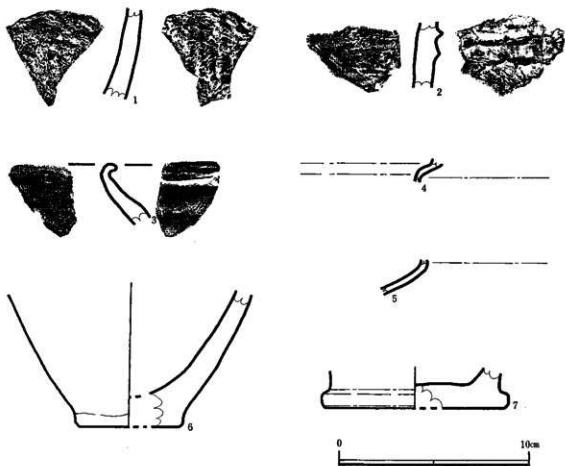
形だが、4a層以下はほぼ平坦に堆積している。また、このトレンチでは8層のサツマ層が確認されたが他のトレンチでは確認できなかった。遺物は出土していない。

第6トレンチ

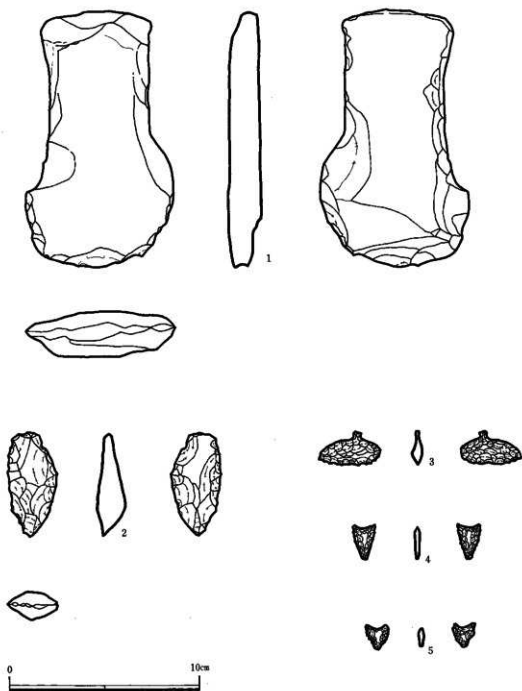
調査区域の南端に位置する第6トレンチから北へ約30mの位置に2m×4mで設定したトレンチで、長軸は南北を向く。標高は192.5mである。やや、南に傾斜する地形で、層の残りは良い。遺物、遺構等は検出されなかった。



第9図 第6トレンチ東壁層位断面図



第10図 池袋遺跡出土土器実測図



第11圖 池發遺跡出土石器實測圖

第1表土器観察表

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面調整	文 様 そ の 他
				外面	内面		
1	6	石英・長石・砂粒	良好	橙 褐 色	灰 褐 色	ナ デ	外面に燃糸文を施す。
2	4 a	石英・長石・砂粒	良好	暗茶褐色	茶 褐 色	ナ デ	外面に凹線を施す。
3	3	石英・砂粒	良好	暗茶褐色	暗 褐 色	ナ デ	
4	3	石英・長石・微砂粒	良好	褐 色	暗 褐 色	ナ デ	内外面とも工具によるケズリの後ナデ
5	3	石英・長石・微砂粒	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	ナ デ	内外面とも工具によるケズリの後ナデ
6	3	石英・砂粒	良好	暗 褐 色	暗 褐 色	ナ デ	
7	3	石英・砂粒	良好	明 褐 色	明 褐 色	ナ デ	

4) 出土土器・石器

池袋遺跡からは土器の破片と石器が出土した。そのうち図化できるものを本書では取り上げた。1は土器胴部破片である。外面に燃糸文を連続して施している。2は外面に凹線を施し内面に貝殻による調整を施す胴部片で、他にも類似した土器が数点出土したが、図化できるものは無かった。3は口縁部先端が外反する器形である。4、5は内外面とヘラ状工具による調整を施す土器片で、縄文時代晩期の浅鉢と思われる。6、7は底部片で平底である。7は筒状で底部先端が外にふくらむ器形である。

石器は石鏃、石斧、石匙、スクレイパー、剥片等が出土したが、そのうち図化できるものを本書では取り上げた。1は有肩石斧である。打製石斧で第2トレンチの表土から出土した。2はスクレイパーで石材は黒曜石である。3は石匙で石材はチャートである。4は、5は、石鏃で4はチャート、5は黒曜石である。

第3章 まとめ

今回の調査では第1トレンチと第2トレンチ、第4トレンチから縄文時代早期・中期・晩期の土器片が出土した。遺跡の範囲は農路整備に伴う確認調査だったため、完全に把握できなかったが、第1・第2・第4トレンチを設定した畑地がほぼ遺跡の中心と思われる。内ノ野地区は今まで発掘調査が行われていなかったため、土層の状態が把握できていなかった、今回の調査で、8層のサツマ層が遺跡の南側の第5トレンチのみに確認された。おそらく全体的に傾斜がきつい地形のために残らなかったのではないだろうか。また、第4トレンチに6層面から検出された集石は宮田山からの川であった可能性が高い。



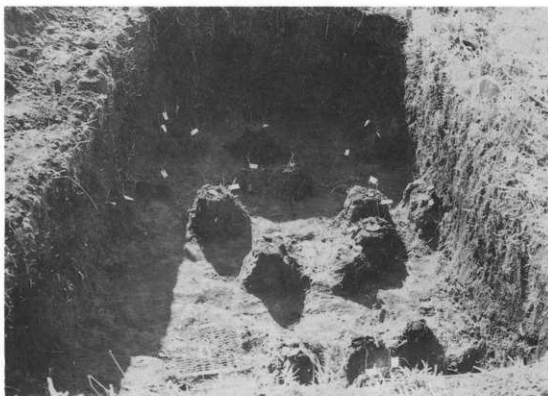
図版1 池袋遺跡遠景



図版2 第1トレンチ遺物出土状況



図版3 第2トレンチ遺物出土状況



図版4 第4トレンチ遺物出土状況



図版5 第5トレンチ西壁層位断面図



図版6 発掘調査作業風景

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(12)

池袋遺跡

1997年3月

発行 松山町教育委員会

〒899-76

鹿児島県曾於郡松山町新橋268

印刷 備綜合印刷

